

「押立神社・ドケ祭り」について調べるには

押立神社は押立郷17ヵ村の氏神です。押立山の三瀬岳から遷られた神さまと白山から勧請した神さまが祀られているので、江戸時代以前は「客人大明神」または「押立二社大明神」と呼ばれていました。(中略) 押立神社では60年ごとに古式祭「ドケ祭り」が行われることで有名です。ご祭神を押し立山からお迎えしたとき、氏子がそろってお迎えしたお渡りの行事がドケ祭りの起源であるといい、「ドケ祭り」のドケとは道化の意味であるとも、また「神さまのお通りだ、どっけどっけ」という意味であるとも解釈されています。(『まるごと東近江百科』より)



図書館の資料で調べる

① 押立神社について調べる

◆ 『湖東町史 下巻』

湖東町役場、1979年

第五章「湖東町の文化財」第二節「町内にある重要文化財」で、押立神社の詳しい歴史と本殿と四脚の大門について数ページにわたる記述があります。また多数所蔵している古文書のうち、湖東町史の本文の記事に関係あるものが収載されています。

◆ 『神社本殿の建築 愛知県三河地方・岐阜県・三重県・奈良県・滋賀県湖東地方の社を訪ねて』

花村清隆／著、2006年

著者自らが29の神社を訪ねて建物を観察し、その構造形式を確認して記した資料です。押立神社については、本殿の構造を詳細に紹介しています。本殿の正面図と側面図あり。

◆ 『湖国百選 社／寺』

滋賀県総合研究所／編、滋賀県、1993年

『湖国百選』シリーズの「社／寺」編。県内101の寺社を取り上げ、豊富な写真で紹介しています。

②ドケ祭りについて調べる

◆『湖東町史 下巻』

湖東町役場、1979年

第五章「湖東町の文化財」第三節「その他の文化遺産」で、ドケ祭りについて詳しい記述があります。明治45年に行われた時の式順、参加者構成、服装などの諸記録の抜粋が収載されています。ドケ祭りの風景写真あり。

◆『滋賀県の民俗芸能』

文化財保護課／編、滋賀県教育委員会 1998年

滋賀県内で伝承されている民俗芸能の現状を調査し、とりわけ記録のないもの、衰滅または変容の危機に瀕しているもの、旧慣をたどれるものなどの中から必要なものを選び、作成された記録集。明治45年に行われたドケ祭りの記録の要約が記載されています。

◆『近江の歴史と文化』

木村至宏／編、思文閣出版、1995年

大津市歴史博物館長の木村至宏氏とその指導を受けた計33名による歴史、民俗、美術などの様々な分野の「近江史」の記念論文集。湖東町歴史民俗資料館の学芸員を務めた森容子氏の論文『押立神社古式祭ドケ祭りについて』が収録されています。

◆『湖国百選 祭／踊』

滋賀県総合研究所／編、滋賀県、1990年

『湖国百選』シリーズの「祭／踊」編。県内100の祭りを取り上げ、豊富な写真で紹介しています。

◆DVD『湖東物語』

湖東町・湖東町教育委員会／企画・制作、2004年

湖東町の伝統的な行事を映像によって記録するため、町政50周年記念として制作されました。平成16年の春祭りに、保存会が披露したドケ踊りの様子が収録されています。